

地域教育情報紙

山梨県教育委員会 中北教育事務所

中北.com チウホクドットコム TEL 0551-23-3046

韮崎市本町4-2-4

6

中北地区の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

愛だよ、愛。LOVEの力。

中北地区地域教育推進連絡協議会

中北地区地域教育推進連絡協議会（会長 横森貴志甲斐市教育委員会教育長）は1月26日に敷島総合文化会館で2回目の研修会を行いました。リズムオブラブ主宰の渡辺光美さんによる活動報告、公認心理師の内藤雅人さんによる愛着形成についての講演でした。

活動報告 「リズムオブラブの活動」

リズムオブラブ主宰 渡辺光美さん

トレードマークの赤いTシャツで登場の渡辺光美さん。早速、会場の参加者とともに軽い運動で体ほぐし。渡辺さんの活動を体感するひとときとなりました。

渡辺さんは、保育園や幼稚園、小学校、支援学校などで、活動を続けて約15年。「かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり」「命の尊さ・守り方」について、実践を交えて子どもたちに伝えています。



子どもたちは頭ではわかっているも、危険な場面では体が動かなくなるという現実。いざという時に反射的に行動できるように、「いつも」も「もしも」も生き抜ける「フェーズフリー」な心と体の使い方を身につけてほしい。そして、かけがえのない命を大切にできる親子での「自己肯定感」の醸成が大切とのことでした。

～アンケートから～

- 楽しんで自助・見守りの方法を知ることができた。「いかのおすし体操」もやってみたい。
- リズムオブラブの活動を初めて知りました。フェーズフリーで日常生活の中で心と体を鍛えておくことが役に立てばよいと思います。
- 先生とのお話はいつも心にあたたく残っています。声かけ1つ、子供も大人も安心安全を高めていけるよう心がけていきたいと思います。
- 心と体を育てることの大切さ。いざというときに備え子どもたちが身を守ることを伝えていきたいです。

講演 「子どもたちの心をどう育てるか ー愛着形成に課題がある子どもへの対応ー」

公認心理師 内藤雅人さん

子どもたちの現在、そして将来は

いじめ、暴力行為、不登校、集団に適應できない子供の増加、ヤングケアラー、スマホ依存、ゲーム依存などの課題がある現在。今後、短絡的な凶悪犯罪の増加、引きこもり、様々な依存症、「親ガチャ」思想による無気力感や絶望感などに直面することになるのでは。



愛着形成の重要性

子どもは、視線、表情、声かけ、抱かれた感触などを手がかりに、愛着を形成する。愛着形成により自尊感情が生まれ、レジリエンス（苦しいことから立ち直る力）、積極性、好奇心などが高まり、いろいろなものにチャレンジできるようになる。完璧な母親の完璧な育児を求めているのではない。過保護でもなく、放任でもなく。（ドナルド・ウィニコット提唱の「ほどよい母親」）

愛着障害への支援、関わり方は

愛着障害は「どこの家庭にも起きる」が、「修復できる」「愛着は誰との間でも築かれる」接する時間の長さではない。いつもの接し方に少しだけ付け足しをすればよい。その子の心や気持ちに焦点を当て、個別に声をかけてみる。自分を見ていてくれた、そのときの気持ちをわかってもらえたと感じてもらえるように。



まとめ

愛着障害は対人関係をとおして修正できる。その関係性の修復には1人ではなく、チーム学校で、教育福祉行政、地域コミュニティで支える仕組みを。そして、「苦しい、つらい」と弱音を吐ける職場や地域づくりを。

～アンケートから～

- 愛着障害と発達障害の違いについて知識を得たいと思っていたのでとてもよかった。
- 保護者との信頼関係を築きながら親子に寄り添うこと、子供のよい変化を伝えていくことが大切。
- 具体的な行動・態度やそれに係わる対応を示してくださったので、これからの接し方に活かしていきたい。
- 愛着形成について知識を持ち、愛情深く関わっていきたいと思います。
- 発達障害・愛着障害の子供が実は多く存在しているのでは。すでに親がずいぶん疲弊していて、どのようにしたら親もまるごと受け止めてあげられるでしょうか。教員もゆとりを持たないと対応や研修ができないなと思いました。
- 「ママのスマホになりたい。」こんなつぶやきが聞かれる昨今、親の鼓動を、ぬくもりを、まなざしを、語りかけを知らずに育つ子どもたち。環境によって生ずる二次障害。健やかな子供の成長を願い、おのこの立場から子供を正しく捉え、未来の宝である子どもたちを育てていくことの大切さを改めて感じました。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。
今回は、韮崎市保育連合会会長の望月光美様です。

新1年生をどうぞよろしくお願ひいたします

韮崎市保育連合会 会長 望月光美

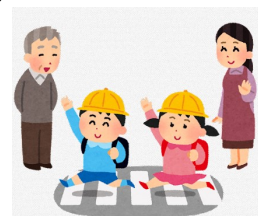
今年度も残りわずかとなり、もうすぐ卒園を迎えます。1日のほとんどを保育園で過ごし、守られた環境の中でも、子どもたちには「困ったことがあったらすぐに先生に言ってね。」と繰り返し伝えてきました。

最近、その言葉かけが「困ったことがあったら、近くの大人の人や学校では先生に言うんだよ。」と変わってきました。4月から、新1年生になる年長児に向けた言葉です。あらゆる生活の場面において入学を意識した言葉かけや取り組みが多くなってきました。もちろん小学校を意識しすぎて不安にならないような配慮もしています。保育園から小学校に入学する節目は、親御さんにとっても私たち保育士にとっても一番不安であり心配な時でもあります。

私事ですが、娘の小学校入学の時、校長先生が話してくださった言葉が今も心に残っています。「乳児期は肌を離すな、幼児期は手を離すな、少年期は目を離すな、青年期は心を離すな」という言葉です。子どもたちも大きくなり、目を離してはいけない子と心を離してはいけない子の子育てに頭を抱える毎日、何にもしてあげられなかった私に代わり、保育士さんや小学校の先生方、シルバーボランティアさん、祖父母に助けられてここまでこられたことを思い出しました。見守りがあってこそ、助け合いがあってこそ、守られるものがあります。

暖かくなったらたんぽぽの花と一緒に黄色の帽子がたくさん歩き出します。「あれ？どうしたのかな？」と感じたら声を掛けてください。

皆様、小さな新1年生をどうぞよろしくお願ひいたします。



山梨県教育委員会保健体育課では、動画「家族で心も体もウォームアップ」を作成し、Webページで公開しました。子供と保護者が、ふれあいながら楽しく運動することができる遊びを紹介しています。

「園児や小学校低学年児童とその保護者にあわせた内容で、身近にある新聞紙やタオルを使った、部屋でできる運動遊びの動画です。感染症への対応として、みんなで集まって運動する機会が減っている昨今ですが、家族で楽しく運動遊びをするきっかけにさせていただきたいと思います。」（保健体育課担当者）

早速動画をチェック！

「よけろ！新聞紙！」「おしりで逃げろ！鬼ごっこ！」など、遊び方が丁寧に解説されています。普段、運動していない大人にもいい運動になりそうです。



「県では、子供たちの豊かな人間性を育む『しなやかな心の育成推進事業』を通して、学校・家庭・地域・関係機関が一体となって、子供たちの「しなやかな心」の涵養を目指しています。この動画も、多くの園や学校で保護者の皆様に紹介させていただきたいと思います。」（担当者）

春の訪れを感じ始めた今、薄着の季節はもうそこまで。家族で楽しく運動して心も体もリフレッシュしましょう！

世界へ挑戦! Chance Challenge Change

塚原心太郎さん（昭和町）

チェアスキー次世代強化指定選手として、日本代表チームに選ばれた塚原心太郎さん（日本航空高校1年）を訪ねました。まず驚いたのは、玄関にあった大型スーツケースの山。

「遠征のたびに8つぐらい持っていくんです。自炊用の鍋を入れることもあるんです。」

小学校3年生から始めたチェアスキー。それまでも、心太郎さんは、パラ駅伝や車椅子テニスなどに挑戦してきた。車椅子でも何だってできる。できることはすべてやりたいという気持ちからだそう。



日本障害者スキー連盟に所属し、国内外での合宿や大会へ参加する日々が続く。現時点では、オーストリアで行われたヨーロッパカップ遠征での7位が最高順位。

「半年以上は合宿や大会で出ています。今は遠征費は自費です。スポンサーがつくためにも大会で成果を残すことが必要です。」

遠征では、他の選手からも様々な刺激を受けている。

「先輩を見ているだけでも勉強になります。教えてくれることはもちろん、道具をいただくことも。後輩を育ててくれるという感じです。10代は僕1人なので。」

海外に遠征して、さらに英語を学びたいと強く感じたそう。

「英語でダイレクトに話したい。海外では通訳をとおして話しますが、相手は通訳を見て話し、僕に伝えようとしないので。」

後輩にむけて一言。

「後輩に言えるほどでは・・・。」と前置きがあってしばらくしたあと、「回数続けて、好きなことをやり続けようまくなれるし、上にいける。」

「スキーができる環境をつくってくれることに感謝したい。」と心太郎さん。「これからも見守って応援していきます。」と家族のあたたかい言葉を聞いて、照れくさそうな表情を見せていました。



2026年ミラノ・コルティナダンパッツォでのパラリンピックまであと3年。心太郎さんの出場を期待しています。

山梨ことぶき勸学院活動実践発表会が、1月25日、甲州市民文化会館で3年ぶりに開催されました。県内各教室の学生が一堂に会し、研究成果を発表する場となっています。当日は最強寒波の影響で雪の降った翌日でしたが、多くの皆さんが集まりました。



中北教室は「ハヶ岳南麓高原湧水群と人々のかかわり」と題して発表。環境省の名水百選にも選定されている「ハヶ岳南麓高原湧水群」の代表的な湧水である大滝湧水、三分一湧水、女取湧水について、現地を見学し、調べた内容を発表しました。

「班ごとに分担して現地を見学し、図書館、市の教育委員会などで調べてみると、その成因、歴史、利用法など、とても奥深く興味深いということが分かりました。限られた活動実践発表会の時間内で何を発表すべきか、その取捨選択に苦労しました。」（中北教室2年生）

何度も練習をかさね、発表当日を迎えた2年生。「視点を変えて調べると新しい発見がある。」とますます地域に愛着を感じた一日となりました。

中北の学校は、今

～英語教育・ICT教育～

中北教育事務所

今どきの英語授業

指導主事 白倉俊樹

英語の学習と聞くと何を思い浮かべるでしょうか。単語を何度も書いて覚えたり、文法や構文をたくさん暗記したり…。今、学校現場に求められる英語はその頃とは大きく変わってきています。小学校3年生から外国語活動をスタートし、高校3年生までの10年間にわたり、言語活動（例：「山梨の魅力を新しくやって来るALTに伝えよう」）を通して、コミュニケーションに必要な力をつけていくことが求められているのです。

英語教育改善プランの指定校（韮崎小・常永小・長坂中・押原中）での取り組みを参観しました。授業は児童・生徒が学習した単語や文法事項等を使いながら、自分が伝えたいことを相手のことを考えながら伝えるよう展開されていました。相手と即興的にやり取りしたり、スピーチしたり、書いたりなど、英語を使っていきいきと取り組む児童・生徒の姿を数多く見ることができました。



ICT活用の現状

指導主事 内藤共哉

GIGAスクール構想の実現に向け、各学校では一人一台端末が整備され、「『端末は文房具』、効果的な活用」を模索し続けた2年目。児童生徒が、「ICTの活用」を前提として「自力」で学び続けることができるように、発達段階に応じた思考や表現、情報共有のツールとして効果的に活用された授業が展開されていました。また、家庭への端末の持ち帰りも進み、保護者の皆様にも、子どもたちがどのように活用し、学習を進めているのか知っていただく機会にもなっています。



本年度、県の学力向上総合対策事業として「深い学びの実現に向けたICT活用推進事業」推進校に中北管内で、泉小・武川中（北杜市）が指定され、ICTを効果的に活用した授業実践に取り組んでいただきました。研究の成果が地域の実践に生かされることを期待しています。

今年度も「中北.com」を、ご覧いただきありがとうございました。

「全職員に回覧しています。」との話を聞き、取材の甲斐があったとうれしく思うこともありました。

ご意見・ご要望は励みになります。取材依頼も、引き続きお待ちしております。

これからも、横のつながりを広げられる地域教育情報紙「中北.com」に御期待ください。

令和4年度『中北.com』 編集・発行 中北教育事務所 地域教育担当：今津義弘・伊神美香